



教育委員会学校教育課 ☎ 25 1265

※1「個別最適な学びと協働的な学び」

一人1台タブレットで学習環境が大きく変わる!

鳥羽市のGIGAスクール整備

一気に時代が動きました。令和元年12月に、文部科学省が「一人1台パソコンと校内ネットワークの環境整備」(GIGAスクール構想)を前倒しにする通達を出したのです。しかも、その整備期間は、わずか1年。

鳥羽市は、アップル社のiPadを1,100台購入(1台45,000円)。また、教室でアクセスが集中してもストレスがないように高速・大容量のWi-Fi環境整備も行いました。

結果的には、県内最速の令和3年1月時点でGIGAスクール環境が整い、鳥羽市の全ての小中学校で、タブレットを片手に授業ができるようになりました。

何が変わるのか?何をめざすのか?

「個別最適で協働的な学び」^{※1}をめざして、これまでの黒板とチョークが主流だった授業に、デジタル化の大波が押し寄せます。

- ◆ 手元のタブレットで情報収集や意見交流ができる
- ◆ 児童・生徒の解答をAIが蓄積・分析する
- ◆ 個人の課題に向けて、個人のペースで学習が進む
- ◆ 台風や感染症による臨時休校時も自宅で授業
- ◆ リモートによって学校間交流や遠隔授業ができる
- ◆ 紙ベースのプリント類が減る
- ◆ 教科書のデジタル化で、重い教科書の持ち運びが軽減などの利点が考えられます。

しかし、これまで通り本を読むことや鉛筆で紙に書くことの大切さも見直されています。タブレットは、あくまでも「文房具」です。タブレットの使用そのものが目的ではなく、それ

を使って何を、いかに効率的に学びを深めるかが重要です。

見えてきた課題

○先生の指導スキルや一括管理技術の課題

教員も教委もタブレットをどう管理し、どう使うかを一生懸命研修中です。鳥羽商船高専さんや外部業者にもサポートをお願いしながら進めています。

○各家庭のWi-Fi環境整備

鳥羽市では、97%のご家庭にWi-Fi環境がありましたが、未整備のご家庭には、当面、モバイルルーターを貸し出して対応しました。今後も引き続き、全てのご家庭にWi-Fiの整備をお願いしていくことになります。

○予算的にも持続可能なGIGAスクールへ

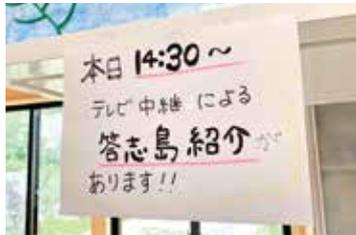
今回のGIGAスクール構想には、国からの3分の2の補助金がありましたが、先生用のパソコンや大型モニター、ドリルアプリなどは、市単独の予算や各種団体からの寄付、一部保護者負担となりました。数年後には買い替える必要も出てきます。今後、考え方や財政状況によって、自治体間の格差が生じる懸念が残ります。

○情報モラルの育成

子どもたちを有害な情報から守るだけでなく、「情報発信者のモラル低下」も社会問題化しています。タブレットを子どもたちに持たせることは危険と隣り合わせで、「諸刃の剣」だと意識しなくてはなりません。

子どもたちと一緒に考えていきたい課題です。
(教育長 小竹 篤)

今回のトバゴトコラムは「高齢者とデジタル」のお話です。最近では、新型コロナウイルスの接種予約やキャンセル決済、ネットスーパーなど、まちの中でもさまざまな場所でデジタル化が進んでいます。左の写真は、7月に実施された「オンラインふるさと便り」という企画の様子で、鳥羽の高齢者施設と答志島がオンライン(デジタル)上でつながりました。高齢者のかたは施設の中から島の名所を巡り、その様子を眺めながら事前に運ばれた現地の食材(豆腐)を味わう体験をしました。そのなかでも、懐かしい場所や人が映るたびに、答志島出身者がテレビ画面へ手を振り、声を掛ける姿はとても印象的でした。それらの場面では、高齢者がデジタル



オンラインふるさと便りの様子

今回のトバゴトコラムは「高齢者とデジタル」のお話です。最近では、新型コロナウイルスの接種予約やキャンセル決済、ネットスーパーなど、まちの中でもさまざまな場所でデジタル化が進んでいます。左の写真は、7月に実施された「オンラインふるさと便り」という企画の様子で、鳥羽の高齢者施設と答志島がオンライン(デジタル)上でつながりました。高齢者のかたは施設の中から島の名所を巡り、その様子を眺めながら事前に運ばれた現地の食材(豆腐)を味わう体験をしました。そのなかでも、懐かしい場所や人が映るたびに、答志島出身者がテレビ画面へ手を振り、声を掛ける姿はとても印象的でした。それらの場面では、高齢者がデジタル

技術を受け入れられないわけでも、馴染めていないわけでもありませんでした。どちらかといえば、デジタル機器が高齢者の活力を生み出すスリットとなっていました。今回のように「デジタル」技術は距離や移動面などの課題をいとも簡単に乗り越えていきます。高齢者が年齢を重ねることで生じる心身の変化とデジタル技術は、実はとても相性が良いのかもしれない。高齢福祉分野でも積極的に、そしてわかりやすい手段でデジタルを取り入れていくことが、今後の高齢者を支えていく画期的な方法(味方)になるのかもしれない。

とばびと活躍プロジェクト

トバゴト

Vol.12



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係
(生活支援コーディネーター 杉浦 徹)

☎ 25 1186